

モード Mode Mode は語る

中野 香織

有松絞が語りかけるもの

名古屋の有松地区は、そこだけ江戸時代のような町並みが保たれている絞り染めの産地だ。この地区の文化・伝統を語るストーリーは、国から日本遺産に認定されている。

世界20か国以上で展開する有松絞のsuzusanは、この町に家族経営の工房をもつ。拠点のドイツのデュッセルドルフでデザインをおこない、有松で絞り染めを行い、パリやニューヨークで発表し、ディオールなど一流ブランドにも生地を提供する。

日本では「あと15年持たない」と言われていた有松の歴史的産業を世



江戸時代初期に始まる有松絞には、100種類にも及ぶ技法がある

界的に有名にしたのは、「鈴三商店」5代目の村瀬弘行さんだ。後を継ぐ気はなかったが、ドイツ留学中に同室の友人に作品の魅力を指摘された

「信頼」育む町根底に

ことを契機に2008年に起業した。

「マルセル・デュシャンが美術館に便器を持ち込んでアートに変えてしまったように、身近すぎて平凡だった有松絞も、舞台を変えることで現代的な価値を帯びたのです」と村瀬さんは語る。一点一点手作業で作るので柄に揺らぎが生まれるが、その人間らしさがむしろ高く評価されている。

とはいえ、有松絞は海外ですぐに認められたわけではない。村瀬さんのたくましい営業力の成果でもある。起業当初、サンプルをもってヨ

ーロッパの一流ショップに飛び込み営業を繰り返した。何度断られても修正を重ね、笑顔で戻ってくる村瀬さんに、相手がついに折れるのだ。

その行動力を支えているのは、自信というよりもむしろ、人に対する信頼である。「人はいいものを理解するし、人は自分を助けてくれる」という他者への強い信頼があるのだ。それを育んだのが、彼を育てた有松という町であるのは、話を聞き、かつ訪れてみてふに落ちた。隣近所と自然に助け合うなかで他者を信頼する力は醸成されていくのだろう。

他人を信じることができる文化を皆でもう一度作りませんか、素朴な優しさにあふれる有松絞は語りかけてくように見える。